

# 仕事のことや個人、家庭、家族のこと 何でも相談できる組合にしたい

●JFEスチール京浜労働組合  
書記長  
網島 和彦  
つなしま・かずひこ



**Q1** まずJFEスチール京浜労働組合の成り立ちと現在の組合状況についてお聞きしたいと思います。

**網島** 労働組合の成り立ちは、第2次大戦終戦の年1945年12月に鶴見労働組合が結成。46年1月には川崎労働組合が結成。59年10月には水江労働組合が結成された。鉄鋼産業の近代化、従業員の安定雇用、さらには公害防止という社会的責任といった背景の中で、鶴見・川崎・水江の3事業所の統合が決定され、日本鋼管京浜製鉄所が誕生しました。労働組合は、当時の鶴見・川崎・水江の3組合が、組合員の理解と協力によって、それまでの各組合は発展的に解消し、日本鋼管京浜製鉄所労働組合が1970年8月に発足しました。それから33年後の2003年3月に日本鋼管と川崎製鉄が合併しJFEスチール株式会社が生産、2003年9月にJFEスチール労連が結

成され京浜製鉄所労働組合の名称も、JFEスチール京浜労働組合と改称しました。

**Q2** JFEスチール京浜労働組合の伝統の中で、大切にされているものは何ですか。

**網島** 一言で言うところ、原点は「職場と組合員を大切する」ということです。そのために、職場の第一線での労使関係を大事にしています。職場の組合員の悩みや仕事の課題を吸い上げ、それを解決するために、職場の第一線での労使の話し合いを大切にしています。合理化問題が発生したときも、あくまで職場と組合員を大切にして、労使対等を貫きとことん議論します。現在、JFEスチール京浜労働組合は、JFEスチール単一の企業から、JFEケミカル、エヌケーシー、シーメンス鋼管、JFE技研の事業分社会社も組織化しています。また、製鉄所の関連会社の労働組合で結

組合行事は、マンネリにならないよう、職場・組合員の声やニーズを踏まえて改善を加えながら開催するようにしています。セカンドライフセミナーのほかに、チャリティーコンペも年1回、OBも含めて毎回200名近くが参加して行われています。ここでのカンパ金はすべて福祉施設に寄付されます。

**Q4** 現在、特に重点を置いている活動についてお話しください。

**網島** 特に組合員相互のコミュニケーションづくりを力を入れています。家族も含めた懇親行事としては、4直3交代制なのでなかなか一同に集まることは難しいので、年間3回に分けて、昨年はマザー牧場見学やディズニールランドやディズニースーリーの訪問などを行っており、毎回400〜500人が参加しています。

また、若年層組合員の、友達・仲間づくりのための行事として、スキーツアーなど、より多くの仲間が集える行事の企画・開催に力を入れています。それから、安全衛生活動にも力を入れています。毎月1日を組合安全の日と定めて、その日には「あんえいニュース」の配布と京浜関連協会の参加も得て組合安全パトロールを実施しています。そこでは、働く組合員の意見・ニーズ・要望を直接に聞いて、具体的解決に向けてすぐ動くようにしています。

京浜関連協との連携強化にも力を入れています。

います。職場で共に汗を流す仲間であり課題や悩みも同じですし、製鉄所業務全体の半分以上を担っていますので、京浜関連協との連携は必須なのです。

**Q5** 現在、JFEスチール京浜労働組合として抱えている課題および課題への取り組みについてお話しください。

**網島** 一つ目の課題は、将来に向けた事業所基盤の整備についてです。二つ目の課題は技能・技術の伝承の問題です。高度成長期に大量採用した団塊の世代が2007年より退職を迎えます。その一方で、オイルショック（1973年）さらにはプラザ合意（1985年）による急激な円高等の影響を受けた鉄鋼不況により



組合事務所の風景

成する京浜関連労働組合協議会と、同じ構内で働く仲間として春闘・安全衛生活動・政策制度等をはじめとして日常的に連携をとりながら一緒に活動しています。

**Q3** JFEスチール京浜労働組合の主な活動の特徴についてご説明ください。

**網島** 組合員対象の活動の目玉としては、55歳の組合員とその配偶者を対象とする1泊2日のセカンドライフセミナーです。ここでは、定年退職後のセカンドライフに備えての心構えとか年金説明などが行われます。ご夫婦での参加と一部自己負担をお願いしていますが、非常に評判は良いです。

本部・支部・職場組合員との対話を大切に、支部委員会への参加や職場討議を充実させて、職場や組合員の悩みに耳を傾け、激励するようにしています。

1970年以降採用を抑制してきた結果、生産現場における技術・技能の空洞化が課題となっています。製造業としての根幹である現場力の再構築に向け、熟練した現場マンであった団塊の世代の穴を埋めるための、技術・技能の継承のための教育が急務となっています。

3つめは少子化に伴う労働力確保の問題です。

**Q6** 最後に労働組合の活動を進める上で、ご自身のモットー、心がけていることがあれば教えてください。あなたにとって、労働組合の役割とは何だと考えますか？

**網島** 組合員の皆さんが、退職時に組合員籍を離れるときに、この京浜労働組合の組合員であったこと、JFEスチール社員であったことに素直に感謝されることです。

効率性を求めるにしても、そのプロセスが重要であり、みんなの合意を大切にしていきたい。単に給料や労働条件が上がっても、働く実感や喜びが得られないと何にもなりません。運動・活動を進めるにあたって、組合員が丸になって取り組むことを心がけていきたいと思っています。労働組合とは、働く者の集まりです。課題・ニーズは様々であるが、お互い助け合って、生活の安心・安定を求めていく。そのためには、何が問題・課題なのか十分把握し、明確にしなからその対処をしていくことを心がけていきたい。

（聞き手：IMFJC組織総務局 渡辺）